

【臨床・研究】

当院小児死亡症例，過去15年のまとめ

か	とう	ふみ	ひで	さ	とう	み	ちか	ま	たま	ち	ひろ
加	藤	文	英 ¹⁾²⁾⁴⁾	佐	藤	美	愛 ¹⁾	真	玉	千	紘 ¹⁾
あ	べ	やす	ひろ	こ	いけ	だい	すけ	ひら	で	とも	ひろ
阿	部	恭	大 ¹⁾	小	池	大	輔 ¹⁾	平	出	智	裕 ¹⁾
いし	だ	りょう	すけ	やま	もり	ゆう	じ				
石	田	亮	介 ³⁾	山	森	祐	治 ³⁾				

キーワード：小児，チャイルド・デス・レビュー，死亡監査，事故

要 旨

島根県立中央病院が関与した最近15年間の小児（15歳以下）死亡症例を分析し，教訓的な症例を提示するとともに，小児における防ぎえた死亡を考察した。2006年から2020年までに当院での小児（15歳以下）死亡症例は76名であった。このうち，新生児期から当院新生児病棟に入院を継続し死亡した42名を除いた34名について死因を検討した。基礎疾患があった19名のうち，3名は原疾患が関与した死亡，16名はいわゆる重症心身障がい児と言える児で，感染症による急性疾患で5名，ほかは自宅での急変，誤嚥性肺炎などで亡くなった。基礎疾患がなかった15名では，急性疾患3名，事故4名（溺水3名，窒息1名），虐待2名，母による絞扼1名，縊死1名，解剖などでも原因が不明であった児4名であった。

小児死亡の悉皆的な検証制度であるチャイルド・デス・レビュー（CDR）を社会実装するために，島根県においても着実に関係部署・関係者の認識を共有し各種体制を構築していく必要がある。

はじめに

当院は，1979年に救命救急センターに指定され，出雲圏域における救急搬送の第一選択の施設として，地域医療を担ってきた。小児についても，事

故，疾患を問わず，出雲圏域の救急搬送の対象疾患が集約されている施設と考えられる。

そこで，今回，最近15年間の小児（15歳以下）死亡症例を分析し，教訓的な症例を提示するとともに，小児における防ぎえた死亡を考察する。

対象と方法

2006年1月から2020年12月までの15年間で，当院小児（15歳以下，新生児病棟への入院例は除く）の死亡症例を受診記録から抽出した。期間内の小

Fumihide KATO et al.

1) 島根県立中央病院小児科 2) 同 新生児科

3) 同 救命救急センター

4) 静岡赤十字病院新生児科（R4.4.1より）

連絡先：〒420-0853 静岡県静岡市葵区追手町8番2号

静岡赤十字病院新生児科